

令和 6 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	再エネ普及に向けた調査・イベント実施等事業
補助事業者名	安来市
補助事業の概要	<p>「化石由来のエネルギーを市外から調達する」構造から「再生可能エネルギーを地産地消する」構造に転換し、地域経済の好循環と経済的社会的レジリエンスのあるエネルギー需給構造の構築を目的とする。</p> <p>令和 6 年度は、その実現に向け、安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョンの方向 1、2、4 を重点的に実施した。具体的には、太陽光発電 F/S 調査、マイクロ水力発電の勉強会、バイオマス燃料製造の検討、再エネビジョン普及に向けた理解促進イベントおよびプラットフォーム形成に向けた検討を行った。</p>
総事業費	9,857,100 円
補助金充当額	9,857,100 円
事業終了時点で達成すべき成果目標【必須】 (提案書から転記)	<p>安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン</p> <p><u>方向 1 : 市内の再エネ発電量を増やします</u></p> <p>①交流センター等における太陽光発電の率先導入に向けた F/S 調査</p> <ul style="list-style-type: none">・20 箇所程度を調査し、実現可能性をふまえ、令和 7 年度以降に詳細設計、設備設置へと進める箇所数【10 箇所以上】を目指す。併せて、設備容量【100kW (10kW×10 箇所) 以上】を目指す。 <p>②地域主導型マイクロ水力発電に向けた勉強会</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークショップ・勉強会を各 1 回以上開催する。延べ参加者数【15 人以上】を目指す。終了後アンケートを行い、発電の実現に向け、7 年度以降も継続して勉強等したい人数【2 人以上】を目指す。 <p><u>方向 2 : 再エネの熱利用分野や燃料分野の普及に向けて、地域課題解決型の安来らしいビジネスモデルを創出します</u></p> <p>①バイオマス燃料製造の実現可能性の検討</p> <ul style="list-style-type: none">・炭化設備の新設に向けた検討を行う。7 年度以降に設置が可能な箇所【1 箇所以上】の発掘を目指す。 <p><u>方向 4 : 再エネ導入による経済的・社会的メリットを全員で享受し、さらなる導入につながる好循環をつくります</u></p>

	<p>①再エネビジョン普及ツールの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『デジタル紙芝居』を完成させ、出前講座等で1回以上使用する。内容の理解度をアンケートで問い、【60%以上】を目指す。 ・『再エネすごろく』を完成させ、出前講座等で1回以上使用する。満足度をアンケートで問い、【60%以上】を目指す。 <p>②理解促進イベントの実施およびプラットフォーム形成に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『木質バイオマス熱利用体験イベント』を1回以上開催する。満足度をアンケートで問い、【60%以上】を目指す。 ・『太陽光発電ワークショップ』を1回以上開催する。その際「太陽光×農業×IT」の内容で構成し、7年度以降に社会実装できそうな「安来モデル」の開発【1件以上】を目指す。 ・また、プラットフォーム形成に向けた検討を行い、7年度以降につながる形の発掘【1件以上】を目指す。
<p>事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況【必須】</p>	<p>方向1 ①交流センター等における太陽光発電の率先導入に向けたF/S調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年度分と合わせ、【16箇所】の交流センターにて【合計約200kW】の設置可能性が窺えた。 <p>方向1 ②地域主導型マイクロ水力発電に向けた勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会とワークショップを開催し、延べ【34人】が参加した。アンケートの結果、次回以降の勉強会等に参加したい人数は【15人】であった。 <p>方向2 ①バイオマス燃料製造の実現可能性の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が検討する中型サイズの炭化設備の販売事業者ヒアリングし、収支シミュレーションを行ったところ、年間での単純収支がプラスに転じる結果を得た。一方、炭化設備のユーザー事業者にもヒアリングしたところ、製炭の品質を均一に保つことが難しいという課題も聞こえてきた。設置箇所を含め、事業性のあるスキームを見出すためには、【引き続きの研究が必要】である。 <p>方向4 ①再エネビジョン普及ツールの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『デジタル紙芝居』を完成させ、市ホームページおよび市動画チャンネル（YouTube）に掲載した。オンラインアンケートに「ビジョンの内容を理解できましたか？」の設問を設けたところ、回答者の【100%】が「理解できた」または「ある程度、理解できた」と回答した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・『再エネすごろく』を完成させ、市ホームページに掲載した。オンラインアンケートに「再エネ地産地消に興味がありましたか？」の設問を設けたところ、回答者の【100%】が「興味があった」または「ある程度、興味があった」と回答した。 <p>方向4②理解促進イベントの実施およびプラットフォーム形成に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ炭の熱量比較実験のイベントを開催した。アンケートの結果、満足度【100%】であった。 ・太陽光発電でスムーズを作るイベントを開催した。再エネ理解促進にイベント開催は有効であると判断できた。本市の特性をふまえた「安来モデル」を生むためには、【今後も継続した検討が必要】である。 ・プラットフォーム形成に向け、先進事例の調査を行った。上記項目も含め、【まずは勉強会のスタイルが望ましい】と考えられた。次年度、官民連携の勉強会を立ち上げたい。 	
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標【任意】 (提案書から転記)	安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョンに掲げる方向1～4の各目標値について、令和12(2030)年度までの達成を目指す。	
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標の達成状況【任意】	令和6年度事業終了時点では、上記目標の達成度の測定は行っていない。	
補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約 (※技術開発事業のみ：間接補助を行った場合は、間接補助先を記載)	契約(間接補助)の目的	上記方向1、2、4の実施
	契約の方法	一般競争入札(公募型プロポーザル方式)
	契約の相手方(間接補助先)	(株)荒谷建設コンサルタント 安来事務所
	契約金額(間接補助金額)	9,857,100円
来年度以降の事業見通し	令和7年度は、再エネ地産地消社会の実現に向けた「域内経済循環の官民連携勉強会の立ち上げ」「理解促進イベント(ペロブスカイト太陽電池の普及に向けた機運醸成、地域マイクロ水力発電のワークショップ)」を行う。	

(備考)

- 1 事業完了した日から3ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 事業終了時点で達成すべき成果目標の欄、事業終了後、後年度で達成すべき成果目標には、それぞれ、補助金応募申請書提出時に設定した、「①事業終了時点で達成すべき成果目標」、「②事業終了後、後年度で達成すべき成果目標」の記載を転記すること。
- 3 事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況、事業終了後、後年度で達成すべき成果目標の達成状況の記載については、それぞれに対応する形で、成果目標の達成状況及び達成状況についての評価を記載すること。

- 4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。
- 5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。